

暑熱対策はお早めに！

近畿地方の今年の夏の平均気温は、“ほぼ平年並”と出ています。牛にとってはかなり暑くなります。夏本番が来る前に、対策を見直しましょう！

「暑さ」を感じると、牛はこんな症状が出ます。

<p>①呼吸数増加 <u>パンティング(ハアハア呼吸)80回/分以上</u>は、ヒートストレス状態</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>呼吸するにもエネルギーを使います。 また、反芻や採食行動が低下します。</p>	<p>②体温上昇 平均体温は38～39℃。<u>39.2℃以上</u>がヒートストレスの目安</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>発情行動や受胎率の低下など繁殖にも悪影響</p>	<p>③乾物摂取量の低下 まとめ食いや濃厚飼料の選び食いが起こり、飲水不足で深刻に。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>繊維不足で反芻低下・乳量や乳脂率の減少・ルーメンアシドーシスなど。 <u>嘔み返し40回以下はアシドーシス疑い</u></p>
--	---	---

〈対策〉

1. 牛舎内の温度を上げないために

(1) 換気の徹底

・暑さと湿度対策として、通常よりも風通しを良くし、換気に努めましょう。

(2) 西日を極力入れない

・すだれをかけるなどして、飼槽や牛床に、直射日光が入らないようにしましょう。

2. 牛へのストレスを重ねないために

(1) 水の給与

・水が腐敗しやすい時期なので、ウォーターカップや水槽の清掃はこまめに行いましょう。

(2) 粗飼料の管理

・し好性のよい高品質粗飼料を飼槽から切らさないようにしましょう。

(3) 飼料給与方法

・夜間の涼しい時間帯は採食量が減少しにくいので、この時間帯に十分なエサがあるようにしましょう。

酪農の技術指導業務が家畜保健衛生所に

平成27年4月から、酪農全般について一元的に対応できるよう、畜産技術振興センター技術指導担当の酪農業務を家畜保健衛生所に統合しました。

これにより、家畜保健衛生所が、今までの疾病対策や衛生指導に加え、乳用牛の飼養管理技術や改良等に関する業務を行いますので、お困りのことなど何でも気軽に御相談ください。

滋賀県家畜保健衛生所

(本所) 近江八幡市西本郷町226-1
 Tel: 0748-37-7511, Fax: 0748-37-4821
 緊急携帯: 090-3613-7486

◆ (北西部支所) 高島市今津町弘川249-1
 ◆ Tel: 0740-22-2145, Fax: 0740-22-6681
 ◆ 緊急携帯: 080-6176-8052